

留学報告書

2022 年 7 月

立石 泰佳（たていし やすか）

早いもので UCL の PhD 課程も 1 年目の終わりに差し掛かっています。最近の留学生活についてご報告させていただきます。

コア科目の期末試験

前回の報告書に記した通り、経済学 PhD の 1 年目はコア科目と呼ばれるミクロ経済学・マクロ経済学・計量経済学の授業を受講します。UCL は少し特殊で数学（解析学・測度論）の授業も加わります。5 月に期末試験を受け、7 月の成績発表で無事にすべての試験に合格していることが分かり、進級が確定しました。UCL では中間・期末の平均点で進級が決まるのですが、毎年一定数が不合格になって修士のみで大学を去るという形になっています。そのため、この 1 年間は授業の難しさ・試験の厳しさとの対峙以上にプレッシャーとの闘いという様相を呈していました。無事に合格できてとても安心しています。

試験はオンラインの open book 形式で、問題が発表されてから 24 時間後までに提出するという方式でした。本来はもっと短い時間で終わることが想定されているのだと思いますが、難しい問題に苦戦したり、解答を LaTeX でタイプしたりしていたらなんやかんや 20 時間以上費やした科目が多かったです。2 週間にわたり 4 科目の試験を受けたのですが、睡眠不足もあいまって体力的に厳しかった、というのが正直な感想です。ミクロ経済は中間の平均点が高かったせいか極端に難化し、計量経済学は 10 週間の学期中ずっと nonparametric model を扱っていたのでそもそも内容が難しく、マクロ経済は analytical part としてモデルを解く部分に加えて Matlab で impulse response をグラフに出力する部分があり、とても時間がかかりました。試験が終わった後も解けなかった問題について考え続け、散歩をしている最中に突然閃いて家に走って帰って書き出してみたら解けたことが悔しく、提出するわけでもないのに解答を清書する…というような状態だったのですが、蓋を開けてみれば成績も悪くなかったのでほっとしました。4 月に友人と授業内容を復習したり過去問を解く勉強会を 2-3 日に 1 回開催していたのが自分の理解を深めるのに役に立ちました。

個人的に、東大の修士課程で 1 学期間だけ受けたコア科目で理解が追いつかず躓いた経験があったため、今回合格したことは自信に繋がりました。振り返ってみれば東大よりも UCL の方が内容的には難しかったのですが、当時は学部向けと修士以降の経済学のレベルの違いに戸惑い、数学の基礎知識もなく、周りの優秀さにただただ圧倒されていました。その後数学を学び直すところから始めて、今回やっとコア科目への苦手意識を払拭できたような気がします。難しい問題に直面するたび何度も経済学を専門とすることに対して心が折れそうになっていたのも、自分は分からない定理を前にしても丁寧に理解すべく時間をかけることができるのだと思えるようになったことが一番感慨深いです。

Dissertation (1st year paper)

試験が終わった後は夏休みを謳歌している、と言いたいところなのですが、UCL では 1 年目に論文を書かなければいけないため、最近は専らそのための分析を進めています。PhD に付随して出される修士号の要件の 1 つという扱いなので MRes dissertation¹と呼ばれているのですが、どちらかというとも今後の研究の足掛かりになるような論文というような立ち位置です。正直 5 月までは授業と試験に追われてほとんど論文に手を回せていなかったのですが、試験が終わってから本格的に取り組んでいます。

私は開発経済学の中でも紛争に特に関心があり、今回は紛争を起因とする難民危機の労働市場や教育などへの長期的な影響を分析しています。国としてはヨルダンのデータを扱っており、その中でも 1967 年の第三次中東戦争によって生じたパレスチナ難民の子供世代を分析しています。自分の興味のあるトピックですし、ヨルダンとパレスチナ西岸地区を訪れたこともあるので楽しく取り組んでいます。データ分析の作業自体は地味ですが、面白い結果が出たときには高揚感を抑えきれず友人にすぐさま報告したくなるような、そんなプロジェクトです。指導教官との相性もよく、ミーティングのたびに非常に建設的なアドバイスを貰っているので、残り 1 カ月半で良い論文を書き上げたいと思います。

2 年目の展望

経済学 PhD では 2 年目はフィールドコースと呼ばれる専門科目の授業を受けることになります。UCL の開発経済学の授業は半期しか開講されないため、LSE の通年の授業を取ろうかと考えているところです²。追加でもう 1 つ授業を取る予定で、今のところは労働経済の授業を候補に考えています。また、最近とても面白いテーマで共著のプロジェクトに誘っていただいたので積極的に進めていきたいですし、先生の RA なども経験して研究スキルを身に付けたいと考えています。将来的にフィールド実験を行いたいのでそのためのグラントを取るための研究計画の作成なども進めていきたいです。私は奨学金のおかげで TA の義務が免除されるので、2 年目に自分の研究のための時間を確保して自由に動くことができそうです。これも財団の皆様のサポートのおかげなので、非常に感謝しています。今後とも宜しくお願い致します。

¹ ちなみにアメリカでは博論を dissertation、修論・卒論は thesis と呼びますがイギリスではすべて dissertation と呼ばれます。

² ロンドン大学のネットワークを利用して他大学の授業を受講することができる制度があります。



旅行で Edinburgh と Lake District に行ってきました。



Wimbledon も観戦できました。1 日目 No.2 コートの Wawrinka vs. Sinner